

THE SHINGASHI BASIN NEWS

新河岸川流域しんぶん

里川  
SATO-GAWA

発行●新河岸川流域川づくり連絡会 新所沢事務所  
住所●埼玉県所沢市弥生町2936-6 山口ビル1F TEL/FAX 042-994-3212  
発行日●2003年(平成15年)5月30日

VOL. 20



切絵 毛利将範

若葉の緑も日増しに色まさり、川辺で過ごすひと時がいっそう心地よい季節になりました。

子供たちはもちろん、皆が川に目を向けるこの時期、川づくりについて考えるには最適です。『里川』では、流域の方々に川への親しみと川づくりへの関心を持ってもらえるよう、イベント情報を充実させていく予定です！

### 目次

- P 2-3 新河岸川水系水環境連絡会  
2003年度総会
- P 4-5 市民の活動紹介 ～所沢源流の会～
- P 6 埼玉県からのお知らせ
- P 7 新河岸川流域川づくり連絡会報告
- P 8 流域イベント・インフォメーション  
新所沢事務所通信

# 新河岸川水系水環境連絡会2003年度総会

新河岸川流域で活動しているさまざまな市民団体によって構成される「新河岸川水系水環境連絡会」。朝霞市にある同事務局内で2003年度総会が開催され、前年度の活動報告及び今年度の活動方針の確認をはじめ、実施予定の各プロジェクトの計画などが発表されました。

## 開催内容

日時：4月5日（土）10：00～14：00  
会場：市民ネット事務局（朝霞）

### ○議事次第

1. 新河岸川水系水環境連絡会について
2. 2002年度活動報告
3. 2002年度会計報告
4. 2003年度予算案
5. 2003年度活動計画（案）
6. 各プロジェクト報告と2003年度の計画
7. 規約の改正について
8. 2003年度人事
9. 2003年度の年間予定

### ●新河岸川水系水環境連絡会とは？

「新河岸川水系連絡会」を前身するネットワーク。平成6年（1994年）に新河岸川流域において「身近な川の一元調査」を主題として活動を開始。活動範囲を広げるため、平成11年（1999年）に名称を現在の「新河岸川水系水環境連絡会」に変更。その活動は、水質調査をはじめ河川周辺の地形・生物等を含めた「人と川の循環」のかかわり全般に及んでいる。



事務局：埼玉県朝霞市西井財  
1-7-17-301市民ネット内  
TEL：048-466-0916

## 1. 新河岸川水系水環境連絡会について

## 2. 2002年度活動報告

新河岸川水系水環境連絡会 2002年度活動経過

月	日	活動	開催地
4月	5・6日	天然河川調査 第4回定期総会	北川・柳瀬川・落合川 朝霞市リサイクルプラザ
5月	18日	下水処理場見学会（①）	所沢市浄化センター
5月	26日	一元調査リハーサル	埼玉県立所沢北高校 朝霞市リサイクルプラザ
6月	9日	身近な川の一元調査（②-1）	砂川堤・東川・柳瀬川
7月	30日	朝霞市主催「子ども水辺教室」に協力	黒目川
9月	5日	事務局会議	事務所
9月	26日	日本陸水学会で新河岸川流域のデータ分析を発表（内野）	東京農工大学
9月	29日	一元調査データ検討会（②-2）	朝霞市リサイクルプラザ
10月	13日	魚類調査	栗川
10月	19・20日	魚類調査	砂川堤・東川
10月	27日	データの検討	事務所
11月	2～4日	一元調査マップ作成作業	事務所
11月	9・10日	マップ・報告書作成作業	事務所
11月	11日	マップ入稿	荒川下流工事事務所
11月	16・17日	報告書作成作業	事務所
11月	21日	天然河川学習会	新所沢・新河岸川流域 川づくり連絡会事務局事務所
11月	23日	報告書作成作業	事務所
11月	24日	身近な川の一元調査報告会&下水処理シンポジウム（②-3）	朝霞市リサイクルプラザ
12月	22日	報告会・反省会	朝霞市リサイクルプラザ
1月	26日	事務局会議	事務所
2月	16日	事務局会議	事務所
2月	22日	埼玉県環境協働会との話し合い	戸田市 事務所
3月	29日	事務局会議	事務所

## 3. 2002年度会計報告

## 4. 2003年度予算

## 5. 2003年度活動計画（案）

### ●身近な川の一元調査

- ・調査日：6月8日（日）
- ・河岸（護岸の様子、河畔林など）、川床、周辺の様子の調査を入れる。
- ・大腸菌群数の調査 参加項目として調査（助成金が受けられるか）

### ●下水処理場の学習会

- ・下水処理場見学会
- ・日時：5月10日（土）
- ・場所：滝の下終末処理場

## 6. 各プロジェクト報告と2003年度の計画

### ① 2002年度下水処理プロジェクト活動報告

新河岸川流域の河川の中には、COD、NO<sub>2</sub>-N、NH<sub>4</sub>-Nの値が高濃度で検出され、下水処理場の放流水の影響を受けていると思われるポイントがあります。

下水処理場の放流水は、私たちの生活の中から排出されるものであり、河川の平常維持水量に大きな役割を占めています。平成18年度以降、閉鎖の予定である所沢市浄化センターはどのような取り組みをしているのか、下水処理水の現状を学習する為、現場見学会を開催しました。

- ・参加人数：18名
- ・質問内容：1. 流入水と放流水の水質と対策  
2. 消毒用薬剤の種類と使用量  
3. 凝集剤の種類と使用量  
4. 荒川右岸処理場への移行に伴う今後の処理計画  
5. 下水道行政全般  
6. 汚泥の分析項目と数値・排出先  
7. 簡易放流回数

## ② 2002年度身近な川の一元調査 事業報告

- ・実施日：6月9日（日）午前中
- ・調査地域：新河岸川流域（東京都と埼玉県にまたがる狭山丘陵を含む41.1km<sup>2</sup>の30河川）
- ・データ検討会：9月29日（日）
- ・一元調査報告会：11月24日（日）

### ● 2003年度活動計画案

日時・場所	内容
5月25日（日）リハーサル 9：30～ 埼玉県立所沢北高校 13：00～ 朝霞市リサイクルプラザ	実験器具・バック試薬・電気伝導度計などの配布、委員の保守点検
6月8日（日）調査実施 午前中	・水質調査 気温、水温……温度計 電気伝導度……電気伝導度計 透明度……クリーンメジャー pH、COD、亜硝酸態窒素、アンモニア態窒素……バックテスト 川幅（流れ幅）……メジャー 水深……水位棒など ・環境観察 写真、水の色、生き物など（自由筆記形式） ・その他 注射器の使用など
9月 データ検討会	・現地調査の代表者と測定会場の代表者により集められたデータを確認・集計
11月 報告会	

その他、多摩川流域との共同調査を含め、多流域との交流およびデータのネットワーク化を図っていく予定としています。また、データ解析においても、市民の環境評価へのフィードバックを進め、市民の考える環境基準を確立していきます。

## ③ 2002年度天然河岸プロジェクト活動報告

- ・活動目的：
  1. 新河岸川水系に残存する天然河岸の実態を調査して「天然河岸マップ」を作成する。
  2. 天然河岸の保全方策を検討し、保全ガイドラインを作成する。
  3. 調査・研究活動を通して、天然河岸の重要性と希少性を広くPRし、保全の為に機運を高める。
- ・2002年度の活動状況：
  1. 残存情報の収集（ヒアリング実施）
  2. 実地踏査 計5回  
（柳瀬川、北川、黒目川、落合川、立野川、砂川堤、不老川、東川）
  3. 学習会 計1回（独土木研究所 萱場祐一主任研究員）
  4. 天然河岸通信（メール）発行 計11回
- ・実施態勢  
プロジェクトリーダー：宮本善和  
プロジェクトメンバー：10名

### ● 2003年度活動計画案

1. アンケート調査の実施
  - ・アンケート票作成
  - ・アンケートの実施
  - ・アンケートの収集・整理
2. 実地踏査
  - ・支川実地踏査（継続）
  - ・新河岸川本川での実地踏査
3. 学習会
  - ・「生態環境と天然河岸の関わり」（講師：埼玉県生態系保護協会 安東氏）
  - ・「地形・地質と天然河岸」（プロジェクト内自主学習会）
  - ・（独）土木研究所との研究交流会
4. 天然河岸通信発行
  - ・年10号程度発行
  - ・購読者募集
5. 特設・機能の分析および保全方策の検討
  - ・実地踏査、学習会の結果を整理・分析
6. 報告会など
  - ・フォーラム、シンポジウムの開催
  - ・「身近な川の一元調査」報告会での中間報告
  - ・課題：調査・研究の財源および材料など支援の確保

## ④ 2002年度魚類調査活動報告

- ・実地調査

各河川の市民団体が、独自に魚類調査が出来ない場合、連絡会が調査の応援を行いました。それまで調査が未実施であった東川、砂川で全域をカバーする調査を行い、なかでも富士見江川での初調査ではアユが確認され、新河岸川水系でまた一つアユの棲む川が増えました。

新河岸川水系での魚類調査	
参加団体数	18
調査地点数	9河川30地点
調査回数	69回
のべ種類	29種類
連絡会調査支援	3河川 12地点 14回

・魚類調査許可  
魚類調査の際に必要な行政の管轄部署からの許可について、本連絡会は2000年10月17日から現在まで、ほぼ連続し埼玉県の「特別採捕許可」をうけています。また、2003年4月より、県の許可期間が従来の3ヶ月から6ヶ月に延長され、市民団体も許可団体に該当するように変更されますが、これは3年余りの市民活動の実績が認められたことを表しています。

都道府県	行政	調査依頼者は行政、大学および研究機関であることと条件があるため、行政の委託を受けない市民団体の調査には許可がない。
東京都	漁協組合	新河岸川水系の郡内流域には漁業種が設定されていない為、許可は不要。
埼玉県	行政	新河岸川水系に限り、「特別採捕許可」をうけている。
埼玉県	漁協組合	新河岸川水系に漁業種を持つ埼玉県南東部漁業協同組合の許可が必要。

・漁員の斡旋  
2003年3月、連絡会では黒目川流域川づくり懇談会の「魚ウオッチングケース」の大量製作作業に参加。製作には17名の参加がありました。このケースの普及により、魚種の観察・体長測定が簡単に行うことが出来ます。

・他団体との連携  
調査方法から投網の指導、魚種の鑑定など多岐にわたりNPO多摩川センターの支援・指導を受けました。また、国土交通省荒川下流河川事務所の支援により「新河岸川流域の子供たち」として、流域での子供たちと魚類調査結果をとりまとめたオリジナルマップを作成しました。このマップにより幅広い人々に新河岸川水系をアピールすることが出来ました。

### ● 2003年度活動計画案

1. 調査規模の拡大  
水質調査を実施している全河川各地で実施を目指す。
2. 調査内容
  - ・個体数、最大・最小のサイズ測定の項目を含む統一集計票の使用
  - ・魚ウオッチングケースの活用、魚種の鑑定精度および不明魚種の撮影精度の向上
  - ・学習会の実施：魚類の生態、河川環境、投網の実習など
3. 調査結果の活用
  - ・生息魚類の公表：地域住民、行政、学校関係者にデータを提供。
  - ・生物が棲みやすい河川環境づくり：河川改修、造流・ハビタット作りによりデータを活用し、魚の増殖を計る。
  - ・川文化：子供たちに魚の取り方を伝えていく。魚が食べられる川づくりを目指す。
4. 他団体との連携  
・埼玉県南東部漁業協同組合、国土交通省ほか、他流域で活動する市民団体など。

## 7. 規約の改正について

## 8. 2003年度人事

### 2003年度組織 運営委員会

代表	菅谷（黒目川流域川づくり懇談会/東久留米ホテルを呼びもどす会）
副代表	相馬（不老川流域川づくり市民の会）・本田（白子川支流・水辺の会）
事務局/会計	小倉（和光自然環境を守る会）
広報	藤井（黒目川流域川づくり懇談会/黒目川に親しむ会、他）
会計監査	中田（不老川流域川づくり市民の会）
PJリーダー	河原井（ふじみ環境クラブ）
	丹野（所沢北高校）
	下水道 高橋（生活クラブ生協所沢南支部）
	天然河岸 宮本（柳瀬川流域ネットワーク）
	魚類 小林（朝霞・水の会/黒目川流域川づくり懇談会）
	総合学習 永石（砂川堤流域川づくり懇談会）

## 9. 2003年度の年間予定

各プロジェクトの2003年度計画を参照。

レポート

～所沢源流の会からのご挨拶～

## 柳瀬川や東川の源流部を魚影豊かな川にしたい

所沢源流の会 代表 小黒 譲司

新河岸川流域で活動する市民の活動を報告する「市民の活動レポート」。今回は、所沢で活動をしている「所沢源流の会」をご紹介します。「所沢源流の会」は昨年末に設立され、新河岸川流域で活動する団体の中では比較的新しい会です。発足にいたる経緯や会の活動について小黒代表にお話を伺いました。

### 1. ミヤコタナゴはもう戻ってこない?

「雨が降るとなあ、道路の側溝から黒い水が流れ込んでくるんだ。」と、Tさんは言った。昭和50年代からミヤコタナゴの保全に力を尽くされてきたTさんを訪ねた時、私たちはこんな話を聞かされた。

「ミヤコタナゴはマツカサガイに産卵するんだけど、道路の粉塵を混じえたこんな水が流れ込んでくるので、マツカサガイは死んでしまった。」「昔は柳瀬川の上流部にもあっちこちに淵があってミヤコタナゴが群れて泳いでいた。水量も減って浅くなったこんな川になって、魚はみんなサギに食べられてしまった。」「水は東京都に取られてしまった。ミヤコタナゴを呼び戻すには今の二倍の水量がほしい。しかし、東京都は埼玉県の話など聞いてくれない。埼玉県の道路に行っても川の話には乗ってくれない。ミヤコタナゴを自然に戻すなんてワシはもうダメだと思っているよ。」「狭山湖の堰堤工事の時は黄色のドロ水が流れ込んできて。」

生物種の保全とは、人工の飼育箱の中のみその生物種を閉じ込めて生かしておくことではないように思う。自然界に住む場所を失って、特別な水槽の中だけに生かされているミヤコタナゴは、それで本当に満足しているのだろうか。

### 2. 柳瀬川、東川の上流部の今は?

「えっ、これが東川の源流?」絶句する私たちの目の前には、薄汚れたコンクリートの家庭雑排水の集水マンホールが口をあけていた。

流域全体に都市化が進んではいるが、なお場所によって里川のような雰囲気を残す柳瀬川は、上流に遡って所沢市に入ると、立ち並ぶ家屋の間を掘り込んで両岸をコンクリートで固められた都市下水路といった情景に変わる。

しかし、「清瀬付近までアユが上って来てるよ」といった話が聞こえてくると、こんな柳瀬川でも「やればなんとかなる」といった希望が湧いてくる。



● 柳瀬川源流に僅かに生き残ったマツカサガイ

普通、川は上流に行くほどきれいになると思われる。一昨年の秋、柳瀬川を下流から上流にむけて歩いていたら、フト「そう言えば、川の中で子供が遊ぶ姿を見たのは北秋津の辺が最後だったなあ」ということに気がついた。所沢市に入って掘り込み河川となる柳瀬川は、道路傍であっても金網のフェンスで人間との接触を絶たれていて、あちこちから家庭雑排水のヒューム管が川中に突き出している。見た目の水質も清流とはとても呼べないような濁り水で、これでは川で遊ぼうという気にはとてもなれない。

吾妻橋の上流に太った鯉が群れていた。しかし、鯉の鼻先は柳瀬川の川筋には向いていない。右岸からの僅かな湧水の流れ込む側溝の方に鼻先を揃え、押し合いへし合っているのは柳瀬川の現実を端的に現しているように思えた。

それでも流域に住んでいる人は「柳瀬川は良くなりましたよ。一昔前まではとっても臭い川でね」と言っていた。

### 3. 所沢源流の会の発足

柳瀬川流域が都市化されたとは言うものの、新河岸川筋から柳瀬川の谷に入るとローム台地との

境には斜面林が各所に残されていて、流域住民に憩いの場を提供している。人間との接触を欠いたと思われる所沢市の柳瀬川にも、所々河畔林が見られ一部には田んぼも残っている。水質も十分とは言えないまでも昔に比べれば良くなって来ているようである。

家庭排水のマンホールを源流とする東川でも、小手指の市街地に入ると手前には「東川渓谷」と呼びたくなるような心休まる風景が広がっている。

川は、本来流域全体を見ないといけないのだと思う。柳瀬川沿いには多くの市民団体の皆さんの活動があって、前述したようにアユの棲む環境が取り戻されつつある。しかし、東川を含めて柳瀬川の源流部には、今まで述べたような色々な問題があるにも拘らず、どういったか積極的に改善を図る市民グループがなかったようである。これでは僅かに残された良好な環境も間もなくなくなってしまい、未来永劫に「子供の遊ばない川」になってしまう。また、上流のこのような状況は、下流に対して決して良い影響は与えないように思う。こんな事に危機感を持つ何人かが集まって、昨年末に「所沢源流の会」を発足させた。ロコミ的に会の輪が広がって、現時点では17名の会員を有している。

私たちがこんな風にしりたいと考えている川のイメージは次のようなものである。

- 1) 流域住民が洪水災害を蒙らない川
- 2) 流域住民が親しめる川
- 3) 緑が多く、自然の河岸をいっばい残した川
- 4) 色々な生物が生息している川
- 5) きれいな水と豊富な水量を持つ川

活動の範囲は、一応柳瀬川の源流部から北川との合流点付近までと、東川の源流部から西所沢付近までとしている。

私たちはまだ生まれたばかりのグループなので、理想の川の形は色々と考えてもそれをすぐに具体化出来る力を持っているわけではない。何をやるにしても、対象とする川について「どんな自然が残されていて、どこに問題が潜んでいるのか」という川の実態を会員共通の認識とすることが必要である。そんなことから改めて皆で川歩きを始めたところであるが、途中で寄り道したりしてなかなか行程が捗っていない。早めに切り上げて、一杯飲みながらの喧嘩譚々の意見交換もまた楽しい。

当初、会の名称を「柳瀬川にミヤコタナゴを呼び戻す会」にしようという提案があった。しかし、Tさんの話を聞いてみるとそんな名前にしていたら重圧で押しつぶされていくかもしれない。とは言うものの、その野心はいつの日か実現させたいものだと、会員の多くは心ひそかに考えているように思う。



● 大鐘公民館付近の柳瀬川

### 4. おわりに

川は川筋だけで成り立っているわけではない。柳瀬川や東川の上流域では今でも「上新井の調節池建設」や「北野処分場跡地利用」の問題を抱え、東川の下流に計画される新しい調節池や所沢の一般廃棄物の第二処分場をどこに建設するかといった問題にも、私たちは活動区域の範囲を超えて、密接に関係していかなければならないのではないかと考えている。流域の雑木林が年々少なくなっていくのもたいへん気がかりなことである。

私たちは、新河岸川流域の皆さんにとっては生まれたばかりの一番下の弟である。経験豊かな皆さんから見ると、「何をモタモタしているんだ」と思われることが多いかもしれない。しかし、「柳瀬川、東川をいい川にしたい」という会員の熱意は買っただけのものではないかと思う。先輩あるいは兄貴分の皆さんにはそんな観点から長い目で可愛がってほしいし、今後とも色々ご指導を得たいと思っている。

また、会員が増えるのは楽しいことであり、心強いことでもある。「一緒に是非やりたい」という人の増えるのを待ち望んでいる。

### 所沢源流の会情報

- 代表：小黒譲司
- 会員数：17名
- 連絡先：〒359-1103 所沢市向陽町2130-118 小黒 譲司 TEL 042-923-8946 j-oguro@mvj.biglobe.ne.jp



# Information

## イベントカレンダー

### ◆ 2003年 新河岸川水系一斉水質調査

- ・日時：6月8日（日） 9：00～12：00
- ・集合会場：右表参照
- ・参加費：無料
- ・主催：新河岸川水系水環境連絡会
- ・協力：国土交通省荒川下流河川事務所
- ・お問い合わせ：048-466-0916（事務局）

近くの川をしらべてみませんか。  
きれいに見えても  
よごれていたり、  
きたなそうでも  
きれいだったり。

簡単なバックテストで、  
川の様子が変わります。  
今年も新河岸川に流れこむ川の  
200ヶ所以上のポイントで  
川のよごれをしらべます。



地域	集合場所	時間	当日連絡先
狭山市	入間公民館	9：00	
上福岡市	上福岡公民館	10：00	
所沢市	県立所沢北高校・化学実験室	10：00	042-995-5115（北高：丹野）
	松井公民館駐車場	9：00	
富士見市	水谷東公民館	9：00	
東村山市	北山公園国民公園前	9：00	042-391-2365（三島）
	空堀川・第2天王橋	10：00	
武蔵村山市	中藤地区会館	9：00	
新座市	黒目川・市場坂橋	9：00	
	県立新座北高校	10：00	
志木市	志木市役所前	9：00	048-471-1338（天田）
東久留米市	市役所市民プラザ	9：00	090-2642-9442（菅谷）
朝霞市	朝霞市リサイクルプラザ	9：00	090-9311-7932（藤井）
和光市	和光勤労青少年ホーム	9：00	
練馬区	大泉井頭公園	10：00	

### ◆ 写真展「荒川を撮る会」

- ・日時：5月25日（日）～6月29日（日）
- ・開館時間：9：30～16：30
- ・休館日：月曜（休日の場合翌日）、祝日の翌日。
- ・場所：さいたま川の博物館「第2展示室」にて
- ・入場料：無料（入館料別：大人310円）
- ・お問い合わせ：048-581-7333

### ■ 北川かっぱの会 イベント情報

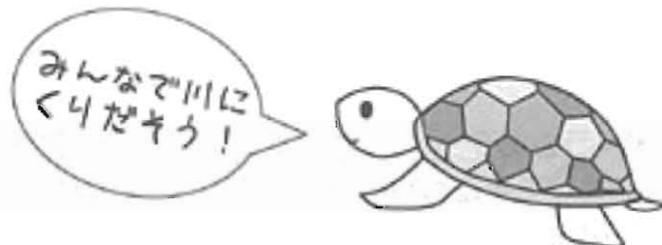
#### ◆ 第7回 野川 ウォーク

- ・日時：5月31日（土）（小雨決行）
- ・集合場所：9：00 東村山駅改札  
10：00 武蔵小金井駅南口
- ・持ち物：弁当・雨具
- ・主催：北川かっぱの会
- ※お申し込み/お問い合わせ：HPまたはメールにて
- ・HP：<http://www6.ocn.ne.jp/~kapa/>
- ・メール：[kapa@abeam.ocn.ne.jp](mailto:kapa@abeam.ocn.ne.jp)

### ■ エコシティ志木 イベント情報

#### ◆ 柳瀬川ウォッチング&出前水族館

- ・日時：6月21日（土）9：00～12：00（雨天中止）
- ・集合会場：志木中学校前の柳瀬川土手
- ・内容：「野鳥」と「水辺の生き物」の2班に分けて調査します。
- ・主催：エコシティ志木/埼玉県生態系保護協会志木支部
- ・お問い合わせ：070-6114-0905（飯塚）



## 新所沢事務所

里川しんぶんについてや、活動についてのお問い合わせは、  
新所沢事務所まで、お気軽にどうぞ！

#### ● 開館時間 ●

月・水・金曜日 午後1時～午後5時  
土・日曜日・祝日 午前10時～午後5時  
火・木曜日 休館

会議などご利用になる場合は、開館時間の変更も可能です。  
ご利用の方は新所沢事務所までご連絡ください。

〒359-0043 所沢市弥生町2996-6 1F  
新河岸川流域川づくり連絡会 新所沢事務所  
TEL/FAX 042-994-3212

### 「里川しんぶん」掲載情報を大募集します！

各流域や地域での活動報告やイベント情報を募集して  
います。身近な情報などをお手紙またはFAXで新所沢  
事務所までお寄せください。



西武新宿線「新所沢」駅 徒歩4分  
所沢市弥生町2996-6 山口ビル1F